

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

本市における
結果の詳細等



本市の全体的な傾向

教科調査

・国語、算数・数学、理科：平均正答率（表1）は、前回調査から、全国（公立）との差が、小学校国語で69%、小学校算数で34%、中学校国語で08%縮まりました。

質問紙調査

・主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善に関する取組状況：前回調査から、「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と回答する児童・生徒の割合が、小・中学校共に増加しており、全国（公立）と比較し、高い傾向がありました。

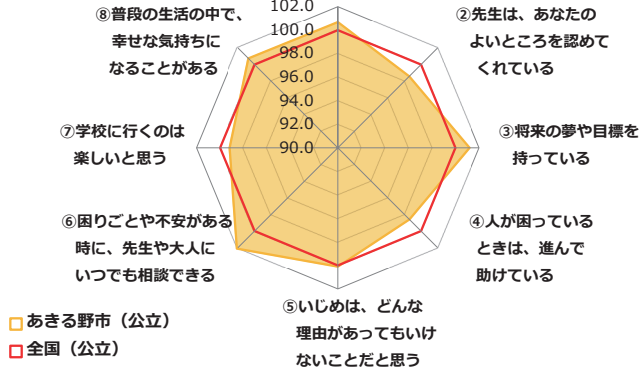
ウェルビーイングに関する状況

・自己有用感、幸福感

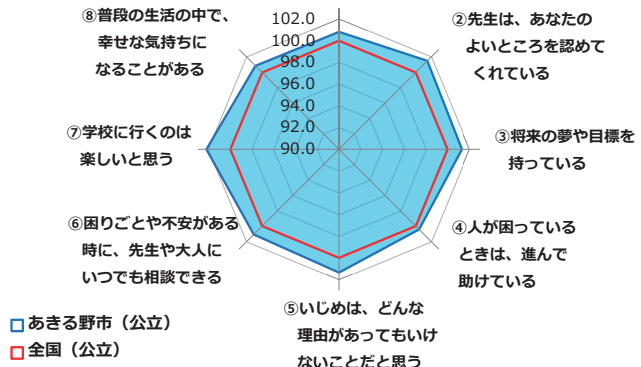
図1 ウェルビーイングに関する状況

※ウェルビーイング・・・身体的にも社会的にも満たされた幸福な状態

小学校



中学校



地域との連携に関する状況

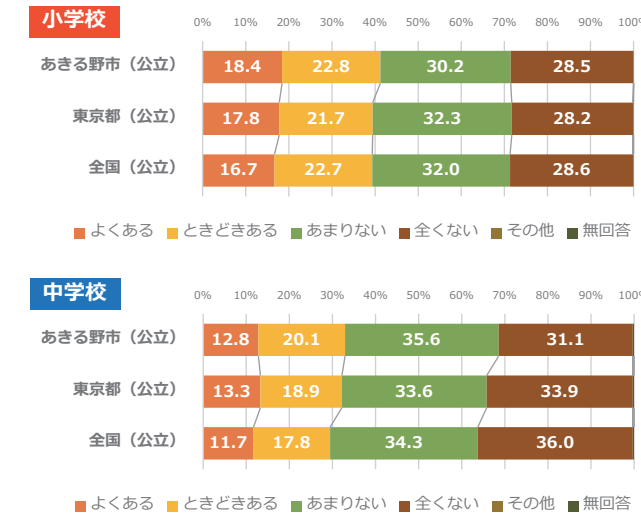


表1 教科に関する調査結果（平均正答率）

令和6年度 平均正答率（%）	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
あきる野市（公立）	59	56		55	50	
東京都（公立）	70	68	未実施	61	57	未実施
全 国（公立）	67.7	63.4		58.1	52.5	

令和7年度 平均正答率（%）	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科※
あきる野市（公立）	65	54	54	52	44	476
東京都（公立）	70	64	60	57	53	506
全 国（公立）	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

※中学校理科の結果は、IR-Tスコアで表記
（参考）文部科学省「中学校理科」IR-Tを用いた結果返却について

がら、発達段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促すなど、家庭学習も視野に入れた学習を行っていきます。

コミュニティ・スクールの活用

学校、家庭、地域が一体となつて、児童・生徒の学力・学習状況の向上を目指した教育活動を推進します。そのために、外部人材の積極的な活用等、保護者や地域の理解と協力の下に十分に連携をとりながら、地域全体で教育に取り組む体制をつくっていきます。

ウェルビーイングの向上

児童・生徒には多彩な能力や可能性がある一方で、個々に様々な課題を抱えています。全ての子どもたちがそれぞれの多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会も確保し、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすことで、ウェルビーイングの向上を図っていきます。

あきる野市・栗原市

中学生友好親善交流会



7月31日、8月1日の2日間、あきる野市の姉妹都市・宮城県栗原市で、友好親善交流会が開催され、本市市立中学校の生徒会代表団26人が参加しました。

いじめをなくそう子ども会議

7月4日に、いじめのない学校・学級を築くために必要なことを話し合う「あきる野市いじめをなくそう子ども会議」が、あきる野市役所の市議会議場で行われました。

いじめ問題の取組に当たって

は、「いじめを生まない土壌づくり」が何よりも重要となります。いじめの未然防止の取組を推進するために、本会議前の6月に「広げよういじめ防止の輪『みんな違って、みんないい』お互いの違いを認め合える学校にしよう』」のテーマの下、市内全校・全学級においていじめ防止

に関する授業を実施しました。児童・生徒は授業を通して、自分を大切にし、相手を思いやることや個性を認め合い尊重することなど、いじめを未然に防止するために一人一人ができることについて考えを深めました。

会議当日は、中学校区ごとに分かれ、現在どのような取組をしているかについて、各学校が掲げたスローガンを基に紹介しました。次に、テーマに沿っていじめに対する未然防止に向けた取組などについて意見交換しながら真剣に考え、提言を作成しました。「やさしい自分を

この交流会は、昭和60年、五日市町（現あきる野市）と志波姫町（現栗原市）が、五日市憲法草案の起草者・千葉卓三郎氏を縁として、友好姉妹都市の盟約を締結したことがきっかけで始まりました。

それ以来、隔年で互いの市を代表団が訪問し、生徒会や部活動交流を通して、友好を深めてきました。

今回は、「私たちの学校自慢」をテーマに、双方の生徒が、自分の学校の特色や誇りに思う取組等についてプレゼンを行いました。また、栗駒山麓シオパークや千葉氏にゆかりのある史跡を見学し、栗原市の自然や歴史・文化を肌で感じることもできました。

令和8年度は、栗原市の代表団を迎え入れることになります。これからも交流学習を通して、両市の将来を担う心豊かな、有意義な交流会となるよう計画していきます。

